

# 規則 14-1b (アンカリング)の施行

R&A



プレーヤー、倶楽部オフィシャル、トーナメント運営者のための情報

ストロークを行うときにクラブをアンカリングすることを禁止する**規則 14-1b**は、2016年版ゴルフ規則の一部として2016年1月1日に発効します。この文書はこの規則が様々なストローク方法にどのように適用されるのかを説明しており（下記パートⅠ）、プレーヤーや競技委員会がこの規則を適用しないことを選択することが規則に基づいて許されるのかどうかについて、R&A や USGA が受け取ったより一般的な質問にも回答しています（下記パートⅡ）。

インフォグラフィックや説明ビデオなどのさらなる情報源は [www.randa.org/anchoring](http://www.randa.org/anchoring) から利用できます。規則 **14-1b** についての質問は [rulesmail@randa.org](mailto:rulesmail@randa.org) にメールすることもできますし、あなたの国のゴルフ協会に尋ねることもできるでしょう。また、この規則に適合するストローク方法をどのように採用するのが最適であるかについての質問はローカル委員会に相談することが推奨されます。

## 規則 14-1b に適合するようにプレーする

### I. 規則 14-1b に適合するようにプレーするときのガイダンス

#### A. 規則 14-1b の本文

規則 14-1b はストローク方法のみに焦点を当てており、使用することができる適合の用具を制限していません。ストロークを行う間、プレーヤーは (i) 「直接的」に、あるいは (ii) 「アンカーポイント」を用いることによって間接的にクラブをアンカーすることはできません。こうした概念はこの規則の中で説明されています。

#### 14-1b クラブのアンカリング

ストロークを行うとき、「直接的」あるいは「アンカーポイント」を用いることによって、プレーヤーはクラブをアンカーしてはならない。

注1：プレーヤーがクラブや、クラブを握っている手を自分の体のどこかに意図的に接触させた場合、そのクラブは「直接的」にアンカーされたことになる。ただし、プレーヤーがクラブや、クラブを握っている手をどちらかの手や前腕に接触させることは認められる。

注2：プレーヤーがクラブを握る手を安定点とするために前腕を自分の体のどこかに意図的に接触させる場合、「アンカーポイント」が存在するものとする。この安定点とは、そこを基点にもう一方の手でクラブをスイングすることができる点をいう。

違反の罰：マッチプレーではそのホールへの負け  
ストロークプレーでは2打

#### B. よくある質問 (FAQ) への回答

下記によくある質問 (FAQ) では、規則 14-1b の適用について R&A と USGA に寄せられた様々な質問に答えています。

#### この規則はパッティンググリーンからのストロークだけに適用されるのですか？

いいえ。規則 14-1b はストロークが行われる場所にかかわらず (パッティンググリーン、フリンジ、フェアウェイ、ラフ、ティー、その他コース上のどこでも)、すべてのストロークのタイプ (パット、チップショット、フルショットなど) に適用されます。

#### ベリーパターやロングパターが禁止されるのですか？

いいえ。プレーヤーは適合のベリーパター (中尺) やロングパターを引き続き使用することができます。規則 14-1b はストローク方法のみに言及しており、ストロークを行う間にプレーヤー

が直接的に、あるいはアンカーポイントを用いてクラブをアンカリングすることを禁止しています。

下記の写真はプレーヤーが規則 14-1b に基づいて認められる方法でベリーパターやロングパターを使っているプレーヤーを示しています。



上: ベリーパター  
右: ロングパター

#### どのようなストローク方法が禁止されるのですか？

規則 14-1b は直接的に、あるいはアンカーポイントを作るために前腕を体に押し当てるように用いてクラブを意図的にアンカーするいくつかのストロークのタイプだけを禁止しています。現在認められているその他すべてのストロークのタイプやグリップのスタイルは引き続き認められます。

下記の写真はこの規則に基づいて禁止される最も一般的な 2 つのストロークのタイプを示しています。



上: ベリーパター  
右: ロングパター

## 規則 14-1b に適合するようにプレーする

14-1b はストロークを行う間、プレーヤーがクラブを手や前腕に押し当てることを認めていません。「前腕」とはどのように定義されますか？

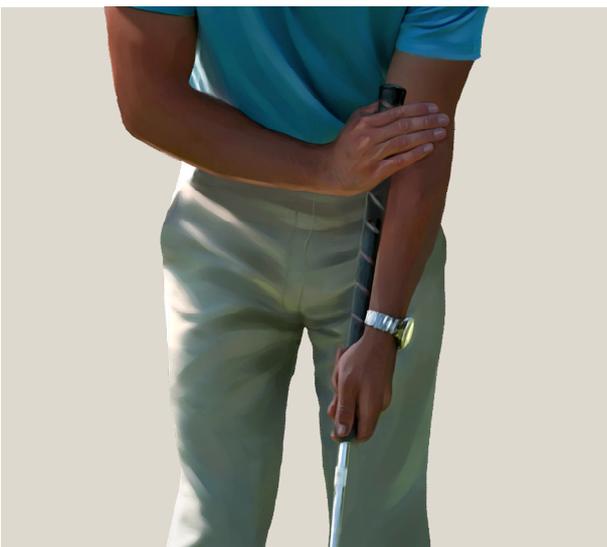
規則 14-1b のために、「前腕」とは肘関節より下の腕の部分であり、手首を含みます。

下記の写真はクラブを意図的に前腕に押し当てる場合に認められるストロークを図説しています。



しかしながら、クラブを肘から上の腕の部分に意図的に押し当ててストロークを行う場合、プレーヤーはこの規則の違反となります。

そのことは下記の写真で図説されています。



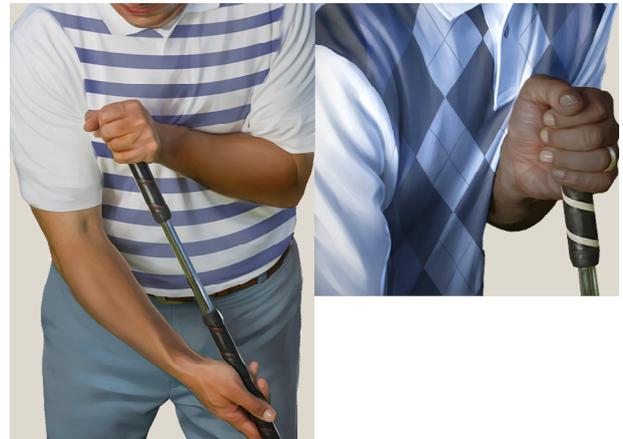
この規則に基づく「アンカーポイント」という用語は何を意味していますか？

この「アンカーポイント」の規定は、間接的にクラブをアンカーするために前腕を意図的に体に押し当てる非常に特殊なタイプのストロークを禁止しています。アンカーポイントは下記の両方に当てはまる場合に存在します。

(1) プレーヤーは前腕（肘から下の腕の部分）を意図的に体に押し当てている。

(2) プレーヤーは両手を離してお互いに独立して動作するように（つまり、上側の手は安定点を作るためにあたかも体に取り付けられているかのようにクラブをその位置に効果的に固定し、一方で下側の手はその安定点の周辺でクラブの下部をスイングするためにシャフトの下部を持つように）クラブをグリップしている。

下記の写真は両手が離され、この規則の違反となる「アンカーポイント」を作るために前腕が用いられている2つの例です。



規則 14-1b はストロークを行う間に、プレーヤーが意図的に片方あるいは両方の前腕を体に押し当てることを常に禁止するということですか？

いいえ。意図的に前腕を体に押し当てることはそうすることでアンカーポイントを作る場合にだけ禁止されます。アンカーポイントを作らないのであれば、ストロークを行う間に意図的に前腕を体に押し当てることは規則 14-1b の違反とはなりません。

## 規則 14-1b に適合するようにプレーする

例えば、下記の写真は規則 14-1b に基づいて認められる方法で両前腕を自分の脇の部分に押し当てているプレーヤーを示しています。両手は離れておらず、お互いに独立して動作していません（ひとつ前の質問を参照）。



しかしながら、プレーヤーが意図的に前腕を自分の体に押し当て、その前腕の手はクラブ握る上側の手で、クラブを逆手（つまり、クラブを握る手がプレーヤーの手首よりも下に垂れ下がる伝統的なスタイル以外のグリップ）で握っている場合、アンカーポイントが存在しているとみなされます。

下記の写真は意図的に前腕を自分の体に押し当て、アンカーポイントを作るために逆手を用いているプレーヤーを示しています。



誤解を避けるために、ストロークの間に片方の前腕あるいは両方の前腕を体に押し当てることを選ぶプレーヤーは、一般的に両手を一緒にしてクラブを握るべきであり、両手を離してクラブを握るプレーヤーは、一般的に前腕を体に押し当て、上側のクラブを握る手を安定させることを避けるべきです。

「サイドサドル」のストロークを用いることは認められますか？

はい。プレーヤーがクラブを直接的にアンカリングする、あるいはアンカーポイントを作るために意図的に前腕を体に押し当てない限り認められます。



上記の写真は認められる方法で「サイドサドル」のストローク方式を用いているプレーヤーを示しています。

しかしながら、両手がお互いに独立して動作できるようにする方法で意図的に前腕を体に押し付けてアンカーポイントを作るような場合にはプレーヤーは規則 14-1b の違反となるでしょう。

## 規則 14-1b に適合するようにプレーする

下記の写真はサイドサドルのパッティングを行う間に規則 14-1b に違反してアンカーポイントを作るために前腕を用いているプレーヤーを示しています。



プレーヤーがアドレス時などストロークの前だけに意図的にクラブやクラブを握る手を体に押し当てる場合、この規則の違反となりますか？

いいえ。規則 14-1b のアンカリングの禁止はプレーヤーがストローク（つまり、球を打って動かすという意味を持って行われたクラブの前方への動き）を行っている間だけに適用されます。ストローク前の意図的な接触は認められます。

ストローク中に、クラブ、クラブを握る手、あるいは前腕がうっかり体に触れてしまった場合、この規則の違反となりますか？

いいえ。規則 14-1b の禁止事項は、ストロークを行うときにプレーヤーがクラブを直接的、あるいはアンカーポイントを用いて意図的にアンカリングする場合にだけ適用となります。プレーヤーがストローク中にクラブやクラブを握る手、あるいは前腕でうっかり体をかすめても罰はありません。

プレーヤーがストローク中に、クラブやクラブを握る手、あるいは前腕で衣類（体ではない）に触れた場合、どのように裁定しますか？

ストロークを行う間にクラブやクラブを握る手、あるいは前腕が単に衣類に触れることは違反ではありません。そうしたことはプレーヤーがゆったりした服やレインウェアを着ていたり、そのプレーヤーの体格や体型が原因で彼の腕が生まれつき体の近くにあったり、クラブを体の近くで持っていたり、その他の

何らかの理由でストロークを行うときに自分の衣類に触れたりといったような様々な状況で起こるかもしれません。

プレーヤーが意図的にクラブやクラブを握る手、あるいは前腕を衣類のひとつを体に押し当てるために用いた場合、どのように裁定しますか？

クラブやクラブを握る手、あるいは前腕によって体に押し付けられている衣類のひとつ（例：ジャケット、シャツ、手袋など）は規則 14-1b のためにプレーヤーの体の一部として扱われます。

プレーヤーはクラブやクラブを握る手を固定するために衣類のひとつを用いることができますか？

いいえ。ストロークを行っている間に、着用している衣類のひとつを体のどこかの部分に固定するために意図的にクラブを握る手を用いることは規則 14-3（携帯品の異常な使用）の違反となります。プレーヤーが体とクラブの接続部分を作るために、シャツやジャケットの一部をクラブのグリップエンドの周りに巻きつけるなどしてクラブを固定するために衣類のひとつを用いた場合も同じ解釈となります。

プレーヤーがアンカリングしたかどうかプレーヤーたちの間で見解が異なる場合、あるいはこの規則の違反があったかどうかではない場合、どのように裁定しますか？

多くの他の規則と同様に、規則 14-1b の違反があったかどうかの裁定は利用できるすべての事実に照らしてなされなければなりません。この規則は意図的なアンカリングだけを禁止しているので、重要な問題は、ストロークを行っている間に、プレーヤーが直接的、あるいはアンカーポイントを用いることで故意にクラブをアンカーしたのか、あるいは体への接触は故意ではなかったのかどうかです。

## 規則 14-1b に適合するようにプレーする

### II. 個々のプレーヤー、倶楽部、競技会が規則に基づき規則 14-1b を適用しないことを選ぶことができるかどうかについての質問

一部のゴルファーたちは、もはやアンカーすることができないことについての懸念を表明していたことから、個々のプレーヤー、倶楽部、競技会の委員会がゴルフ規則に基づき規則 14-1b を無視することが認められるのかどうかについての避けられない質問がなされてきました。

以下の章ではそうした質問への規則に基づく回答を提供しており、いくらかの追加的な留意事項も説明されています。

#### 倶楽部や競技会を管理する委員会は規則 14-1b の施行を拒否するローカルルールや競技の条件を作ることができますか？

いいえ。アンカリングを認めるローカルルールはゴルフ規則に基づいて許可されることはありません。規則 33-8 に基づき、ローカルルールによりゴルフ規則を無視したりしてはなりません。ローカルルールは特定のコースの地域的な異常な状態に対応することを意図しており、規則に示されている方針と一致していなければなりません。

規則 14-1b を排除するローカルルールはこのゲームの基本的特徴、つまりどのようにストロークを行うのかを定義する規則の認められない不履行となるでしょう。

同様に、アンカリングを認める競技の条件も規則に基づいて許可されることはありません。プレーの条件を制定するとき、競技会あるいはコースを管理する委員会はゴルフ規則を修正する権限を持ちません（規則 33-1）。

その結果、ローカルルール、競技の条件、あるいはその他の方法で規則 14-1b は無視できると宣言する場合、個々の倶楽部や競技委員会はゴルフ規則に反する行動をとっていることとなります。

そうした規則無視は一様でない不公平なプレー環境を作り出し、倶楽部レベルで下記のような著しい混乱と議論に導くであろうことに注目すべきです。

#### 倶楽部内：

- 以前はアンカリングしていたが、今は規則 14-1b に従っており、この規則に従わないことを選んだ人たちと比べて不利だと感じているメンバーたちの間、あるいは一般的に倶楽部イベントではゴルフ規則を適用しないという判断を考えているメンバーたちの間などの不協和と意見の相違。
- 不適合の用具を使用することの許可を求めるといったような、その他の認められないローカルルールや競技の条件を採用するよにという倶楽部の役員へのプレッシャー。倶楽部の委員会にとって、なぜ特定の規則は無視することが可能で、その他の規則は無視できないのかを説明することは厄介で難しいことになるでしょう。

#### 倶楽部間：

- 規則 14-1b に適合するようにパッティングスタイルを変更したが、その後、この規則などお構いなしにアンカリングすることをメンバーたちに認めている別の倶楽部でのイベントでプレーするプレーヤーたちの不公平。
- 自分の倶楽部は規則 14-1b を適用しないことを選んだが、規則に従うその他の倶楽部でプレーする時にアンカリングできないことに気付いたアンカリングを続けるゴルファーたちの矛盾。
- いつどこでプレーヤーがゴルフ規則に従うことを選ぶことが認められるのかについての一般的な混乱と不確実性。類似の問題はすべてのレベルのプレーの競技会で存在することでしょう。

## 規則 14-1b に適合するようにプレーする

2016年1月1日より前からアンカリングしたストロークを用いていた個々のゴルファーについて、私の倶楽部が新規則の適用を除外することはできますか？

いいえ。そうしたことは特定のプレーヤーたちに対するゴルフ規則の適用除外となるでしょうから、規則 33-1 に基づき認められません。そうした「適用除外」はゴルフ規則に反するだけでなく、手に負えなくなるでしょうし、競技会のプレーヤーたちの間で深刻な不公平を作り出し、ここでもまた倶楽部のメンバー、お互いの競技に参加する異なる倶楽部のメンバー、そしてゴルファー一般を混乱と論争に導くことでしょう。

プレーヤーは病状を根拠として、規則 14-1b に基づく罰なしにアンカリングすることを倶楽部や競技を管理する委員会に要請し、許可を得ることはできますか？

いいえ。ゴルフ規則には病状を根拠としてプレーヤーがプレーの規則を回避することを認める規定はありません。この規則はゴルフ競技に不可欠の特性を定めており、規則 14-1b ではストロークはどのように行われるのかという根本的な定義を示しています。

プレーヤーはアンカリングするために規則 14-3 に頼ることができますか？

このゲームのプレーで使用することができる機器と携帯品を扱っている規則 14-3 は適用されません。規則 14-3 は病状を根拠としなければ認められないであろう機器や携帯品の使用の許可をプレーヤーが要請することを認めています。この規則はプレーヤーがプレーの規則を無視することを認めていません。規則 14-1b を無視することを認めるべき個人の症状があるかどうかをプレーヤー個々の事情に基づいて委員会が裁定することを認めようとする試みは、先に議論したように同じタイプの混乱、論争、そして不公平に導くことでしょう。